

令和5年度 墨田区立第三吾孺小学校 学校経営計画・学校評価表(自己評価・学校関係者評価)

令和5年5月17日作成

学校教育目標 「自立」自ら学び、考え、行動する人 「共生」思いやりをもち、共に生きる人 「健康」しなやかで丈夫なところからだをもつ人
○目指す学校像 「すべてはみんなの笑顔のために」 三吾小に集う子供、保護者・地域、そして教職員 すべての人々の笑顔あふれる学校 ○目指す児童像 「学ぶ」ということを通して、「思いやり」の上に立つ真の教養と品格とを身に付けようとする子供 そのために、主体的(proactive)に生きる子供 ○目指す教師像 ①教育への情熱と使命感にあふれた教師 ②自らも学び、子供とともに感動することのできる教師 ③社会人としての教養と品格のある教師

領域	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	分析コメント	改善策	学校関係者評価記入欄	評価
児童の教育	【人権尊重】 全教育活動を通して思いやりをもち、共に生きる人となる資質・能力を育成する。	児童の主体性を育み、協働し、いじめが起りにくい集団づくりを行う。	基本的な人権を侵害する言動を「見逃さない、許さない」指導を徹底し、組織的に差別やいじめの防止に取り組む。	4 教アで95%以上の教職員が組織的に対応したと回答 3 教アで90%以上の教職員が組織的に対応したと回答 2 教アで80%以上の教職員が組織的に対応したと回答 1 教アで組織的に対応したと回答した教職員が80%未満		4 認知したいじめ問題に100%対応、95%以上改善・停止 3 認知したいじめ問題に100%対応、90%以上改善・停止 2 認知したいじめ問題に100%対応、80%以上改善・停止 1 改善・停止80%未満、または対応できないケースがあった					
	【特別支援・インクルーシブ教育】 個に応じた支援の一層の充実を図る。	組織的な対応で、不登校問題を含む特別支援の課題解決を図り、個々の児童の特性に合わせた支援を行う。	特別支援部を中心に、全教職員で特別な配慮を要する児童や不登校傾向のある児童の支援にあたる。まなびの教室との連携、学習室「みどり」の活用を推進する。	4 教アで95%以上の教職員が組織的に対応したと回答 3 教アで90%以上の教職員が組織的に対応したと回答 2 教アで80%以上の教職員が組織的に対応したと回答 1 教アで組織的に対応したと回答した教職員が80%未満		4 不登校出現率7%以内かつ学校との接点維持98%以上 3 不登校出現率8%以内かつ学校との接点維持98%以上 2 不登校出現率9%以内かつ学校との接点維持98%以上 1 不登校出現率10%以上かつ学校との接点維持98%未満					
	【主体性の育成】 自ら学び、考え、行動する人の育成を図る。	学びや生活の意志決定を児童に委ね、その決定に責任をもつ態度を育成する。	全校体制で「児童の主体性の育成」をテーマに研究を行い、学力向上・特別活動・Leader in Meのそれぞれの角度から主体性の育成方法を確立する。	4 教アで90%以上が積極的に研究に参加できたと回答 3 教アで80%以上が積極的に研究に参加できたと回答 2 教アで70%以上が積極的に研究に参加できたと回答 1 教アで積極的に研究に参加できたと回答した教職員が70%未満		4 児童アで「学校教育目標「自立」を意識して生活することができた」に90%以上が肯定的回答 3 児童アで「学校教育目標「自立」を意識して生活することができた」に85%以上が肯定的回答 2 児童アで「学校教育目標「自立」を意識して生活することができた」に80%以上が肯定的回答 1 児童アで「学校教育目標「自立」を意識して生活することができた」が80%未満					
	【学力の向上】 ・主体的で対話的な学習活動を通して各教科等の「見方・考え方」を習得させ、思考力・判断力・表現力等の資質・能力を育成する。 ・生きて働く知識・技能の確実な定着を図る。	児童を学習の主体にさせる授業改善を図り、シンキング・サイクルを活用した主体的・対話的な学びを進めることができるようにさせる。	複線型学習、自由進度学習等の研究を行い、教師主導の授業スタイルからの脱却を図る。	4 教アで90%以上が主体性の育成を意識した授業改善に取り組んだと回答 3 教アで80%以上が主体性の育成を意識した授業改善に取り組んだと回答 2 教アで70%以上が主体性の育成を意識した授業改善に取り組んだと回答 1 教アで主体性の育成を意識した授業改善に取り組んだと回答した教職員が70%未満		4 算数実力テスト(1月末学校独自)標準偏差値が昨年度1月末実施と比較し+2ポイント 3 算数実力テスト(1月末学校独自)標準偏差値が昨年度1月末実施と比較し+1ポイント 2 算数実力テスト(1月末学校独自)標準偏差値が昨年度1月末実施と比較し+0ポイント 1 算数実力テスト(1月末学校独自)標準偏差値が昨年度1月末実施と比較しマイナス					
	【健康、安全教育】 自己の健康に関心をもち、自ら健康に生きようとする態度を養うと同時に、危機回避能力を身に付けさせる。	感染症予防の正しい知識に基づき、健康維持のために主体的に適切な行動が取れるようにさせる。	手洗い、咳エチケットなどの衛生習慣を定着させ、いたづらに恐れることなく、適切なマスクの使い方を主体的に選択できるようにさせる。	4 90%の学級で、適切な教材を使用して保健指導を実施 3 80%の学級が、適切な教材を使用して保健指導を実施 2 70%の学級が、適切な教材を使用して保健指導を実施 1 適切な教材を使用して保健指導を行った学級が70%未満		4 児童アで「自分で考えて家庭学習できた」に70%以上が肯定的回答 3 児童アで「自分で考えて家庭学習できた」に60%以上が肯定的回答 2 児童アで「自分で考えて家庭学習できた」に50%以上が肯定的回答 1 児童アで「自分で考えて家庭学習できた」の肯定的回答が50%未満					
地域、開かれた学校	【地域と協働した子育て、開かれた学校】 学校を積極的に開き、地域と学び、地域から学ぶ教育を推進する。	地域の教育財産を生かし、地域を知り、地域を愛し、誇りに思う児童を育成する。	キャリア教育特別授業をはじめ、ゲストティーチャーによる体験的な学習の充実を図る。各学年3回以上の実施を目指す。	4 ゲストティーチャーを活用した授業を学年で年間3回以上実施、全体で20回以上実施 3 ゲストティーチャーを活用した授業を学年で年間3回実施、全体で18回以上実施 2 ゲストティーチャーを活用した授業を学年で年間2回実施、全体で15回以上実施 1 ゲストティーチャーを活用した授業を学年で年間2回未満、全体で12回以下		4 児童アで90%以上が「ゲストティーチャーと楽しく学習ができた」と回答 3 児童アで80%以上が「ゲストティーチャーと楽しく学習ができた」と回答 2 児童アで70%以上が「ゲストティーチャーと楽しく学習ができた」と回答 1 児童アで「ゲストティーチャーと楽しく学習ができた」の回答が70%未満					
		積極的に教育活動の情報発信を行い、保護者・地域の学校教育への理解を深め、教育活動への参画を促す。	HP、学校だより、学校公開、動画通信、校長「語らいサロン」、各種アンケート等を通して、情報発信・情報収集を行う。	4 保アで「学校は積極的に情報発信している」に肯定的回答90%以上 3 保アで「学校は積極的に情報発信している」に肯定的回答85%以上 2 保アで「学校は積極的に情報発信している」に肯定的回答80%以上 1 保アで「学校は積極的に情報発信している」に肯定的回答80%未満		4 保アで「学校の教育活動がよく分かる」に肯定的回答85%以上 3 保アで「学校の教育活動がよく分かる」に肯定的回答80%以上 2 保アで「学校の教育活動がよく分かる」に肯定的回答70%以上 1 保アで「学校の教育活動がよく分かる」に肯定的回答70%未満					
教職員	【教職員の資質・能力の向上、働き方改革推進】 校内研究、研修を充実し、教職員の指導力向上を図るとともに、計画的な学校評価に基づく経営改善を図る。教職員の働き方を改善し、健全な学校教育を推進する。	全校体制で校内研究を進め、あらゆる角度から「児童の主体性の育成」を図る。	研究推進委員長と3部長を中心に、全ての教育活動を研究と結びつけ、組織的に改革を遂行する。	4 教アで100%が「当事者意識をもって研究に取り組んだ」と回答 3 教アで95%が「当事者意識をもって研究に取り組んだ」と回答 2 教アで90%が「当事者意識をもって研究に取り組んだ」と回答 1 教アで「当事者意識をもって研究に取り組んだ」と回答した教職員が90%未満		4 「学校教育目標「自立」ができていない」5月にとった児童アと1月にとった児童アの伸び率が10%以上 3 「学校教育目標「自立」ができていない」5月にとった児童アと1月にとった児童アの伸び率が5%以上 2 「学校教育目標「自立」ができていない」5月にとった児童アと1月にとった児童アの伸び率が3%以上 1 「学校教育目標「自立」ができていない」5月にとった児童アと1月にとった児童アの伸び率が伸びていない					
		教員としての使命を自覚し、服務規定を遵守するとともに、組織的に研修を推進し、教職員の資質・能力の向上を図る。	・服務事故防止研修会を毎月実施し、組織的に事故を起こさない、起こさせない教員集団の育成を図る。 ・朝礼講話、INAOHによる資質向上研修を実施する。	4 教アで90%が「当事者意識をもって服務研修に参加」と回答 3 教アで85%が「当事者意識をもって服務研修に参加」と回答 2 教アで80%が「当事者意識をもって服務研修に参加」と回答 1 教アで「当事者意識をもって服務研修に参加」と回答した教職員が80%未満		4 事故件数0、保アで教職員の信頼度90%以上 3 事故件数0、保アで教職員の信頼度85%以上 2 事故件数0、保アで教職員の信頼度80%以上 1 事故発生、または保アの信頼度80%未満					
		「児童の主体性の育成」研究と一体的に、教職員の働き方改革を推進し、教職員の身体的・精神的な健康を守る。	プロジェクト・チームを立ち上げ、校務を整理し、職員の平均時間外勤務月45時間以内を達成する。	4 教アで90%以上が「平均時間外勤務月45時間以内を意識して働くことができた」と回答 3 教アで80%以上が「平均時間外勤務月45時間以内を意識して働くことができた」と回答 2 教アで70%以上が「平均時間外勤務月45時間以内を意識して働くことができた」と回答 1 教アで「平均時間外勤務月45時間以内を意識して働くことができた」と回答した教職員が70%未満		4 80%以上の教職員が平均時間外勤務月45時間以内を達成 3 70%以上の教職員が平均時間外勤務月45時間以内を達成 2 60%以上の教職員が平均時間外勤務月45時間以内を達成 1 40%以上の教職員が平均時間外勤務月45時間以上である					